

会 議 録

会議名 (審議会等名)		さがみはら森林ビジョン審議会		
事務局 (担当課)		森林政策課 電話042-780-1401 (直通)		
開催日時		令和6年12月6日(金) 13時30分～16時		
開催場所		津久井総合事務所3階 第1会議室		
出席者	委員	6人(別紙のとおり)		
	その他			
	事務局	6人(森林政策課長、他5人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合は、その理由				
議 題		1 開会 2 議事 (1) 令和5年度さがみはら森林ビジョン実施計画の進行管理について 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

事務局（森林政策課）で開会し、会長から会議定足数及び傍聴者の有無について確認がされ、委員全員の出席と傍聴者はいない旨、事務局から報告した。

2 議事

(1) 令和5年度さがみはら森林ビジョン実施計画の進行管理について

第34回さがみはら森林ビジョン審議会において終了時間の関係で審議できなかった「重点事項その2」について、事務局から実施計画評価結果一覧表に基づき説明し、質疑応答及び事業に対する審議を行った。

【「重点事項その2」に係る審議会からの意見、質疑応答等】

〈事業コード2-3-1 津久井産天板交換等事業（No.8）〉

（松本会長）進行管理シートには、「津久井産材だけでなく、市内全域から調達した原材料により天板を作成」とあるが、公園の木や街路樹も含むという認識で間違いはないか。

（事務局）公園の木や街路樹も利用している。

（淵上委員）現状として、広葉樹は材として山からあまり調達できないため、街路樹や公園等の広葉樹を活用している。

（松本会長）ナラ枯れ被害木が多く見受けられるように感じるが、その対策として何かメニューやプログラムはあるのか。

（事務局）ナラ枯れ被害木に関しては、「市民の森」事業における景観伐採等で伐採している事例がある。

（松本会長）伐倒されたナラ枯れ被害木は、天板として活用されているのか。

（淵上委員）大径木はお預かりしている。

最近ではナラ枯れの模様を活かした木工にも取り組んでいる。

（松本会長）利用価値が出ているのは良い。

（山崎副会長）児童机天板の作成及び交換を10校に対して行ったとあるが、市内全ての小学校で実施するまで何年までかかるのか。

（淵上委員）市から来年度で終了という話はあったが、継続の話も検討していただけるということであった。

（石原委員）目標に対する進捗状況が分かりづらいように思う。交換が終了した学校は何校程度あり、残りは何校の交換を予定しているのか関心がある。

(事務局) 既に多くの学校での天板交換は完了しており、教育委員会の計画によると令和7年度で市内の小学3年生の机の天板交換が完了する見込みとなっている。

(淵上委員) 市内の小学校のうち、緑区所在のものはほぼ全て完了しており、現在は南区の小学校での交換を主に行っている。市内70校、約7000枚の交換を行っても市内全児童の5分の1程度であるので、令和8年度以降も引き続き取り組んでいきたいと考えている。

(松本会長) 原木のボリュームでいうと何m³になるのか。

(淵上委員) 天板1枚に必要な分だけを使っているのでもそこまで多くはない。概ね400×600の寸法だと思われるが具体的な数値までは把握していないので後ほど確認する。

天板の交換に伴い森林インストラクターによる環境学習も実施しており、それにより児童が新たな机を大切に作るほか、木は伐ってはいけないと思っている児童が多いため、伐った後には植林していくことを伝えていきたい。市には是非引き続き取り組んでいただきたい。

(石原委員) 森林インストラクターの環境学習は何校くらいで実施しているのか。

(淵上委員) 希望があれば実施している。

(石原委員) 天板交換に合わせて実施できれば良いと思う。

(淵上委員) 市長も木を伐採したら産廃に出すのではなく、再利用していきたいという考えを持っていた。

(松本会長) この事業は何年間取り組んでいるのか。

(淵上委員) 協働事業提案制度で始めたのは平成25年度。教育委員会と取り組み始めたのは平成29年度からなので今年で8年目になる。

(松本会長) 当時の卒業生の意向調査は行っているのか。

(淵上委員) 意向調査は行っていない。

(松本会長) 実際に交換した天板に触れた児童がその後どうなったのか、天板が子どもたちにどのような影響を与えたのか等のアンケート調査を実施したら良いと思う。

インターネットを活用した方法であればコストを抑えながら実施できるうえ、大学の研究にも役立てられる。大学と市、淵上委員にも協力いただいて効果検証してみたい。

(山崎副会長) 淵上委員から発言のあったように、森林に対して誤った理解をしている人は依然として多い。天板交換もそうだが、正しい理解を促すために環境教育についても引き続き取り組んでいただきたい。

(松本会長) 子どもたちにどのような意識づけを行うのが大事である。

例えば学校の暖房の燃料としてペレットを活用するなど、天板だけに拘らず木材の利活用に関する施策についても中長期的に検討してほしい。

(増田委員) 間伐材は天板としての活用は難しいのか。

(淵上委員) 耐久性等から天板として活用しているのは広葉樹であり、スギ・ヒノキといった針葉樹の間伐材は利用していない。

(松本会長) 津久井産天板交換等事業は、令和7年度で一区切りという話はあったが、大事な話

なので教育委員会にも継続の方向で働きかけをお願いしたい。

〈事業コード 4-1-1 さがみはら津久井産材利用拡大協議会の運営支援 (No.9)〉

(淵上委員) メンバーが増えて、積極的に議論されている。

(松本会長) 当該協議会の構成員増加に伴い、事業規模も拡大しているように見受けられる。

(副会長) 課題はもう少し安く利用できれば良い。利用が増えればありがたいが、今日伐って明日欲しいとはいかない。前もって話してもらえれば対応できると思う。

(杉本委員) 木材の流通に関して、川上・川下の各事業者年間スケジュールも概ね把握できるようになってきている。

(松本会長) サプライチェーンの構築等が鍵となっているように思われるが、これは次の「公共建築物等への利用促進」事業にも関連している。消防署の建設工事や詰所の改修工事等とあるが、これらの計画策定から着工までのスケジュールはどのようなものなのか。

(事務局) 関係課から工事を行う旨の情報は頂いているが、発注時期や使用量など細かな情報までは把握できていないのが現状。

(松本会長) 他課の事業に改修等の予定をヒアリングして、ある程度の木材を備蓄しておくのが良いと思う。

汎用性の高い板材や角材があれば災害時の復興資材としても活用できると思う。

毎年毎年、木材が貯まってくれば大規模な改築にも利用できるようになる。

〈事業コード 4-1-1 公共建築物等への利用促進 (No.10)〉

(松本会長) 過去の公共建築物等に対する木材使用量が分かるデータ等があれば共有していただきたい。

(事務局) 年度ごとの実績は把握している。

(石原委員) 公共施設の改修工事等には、さがみはら津久井産材を利用していくよう働きかけていくのも市としての役目であると思われるが、その辺りはできているのか。

(事務局) 「相模原市建築物等における木材の利用促進に関する基本方針」が制定されており、実際に工事を行う際には積極的にさがみはら津久井産材を使うように周知している。

(松本会長) 問題は、事業が具体化し、着工する際に材の調達に間に合わないことにある。

(事務局) その点に関しては我々も課題であると認識している。民間施設はまだしも公共施設の工事を行う際に必要な木材の量は概略設計等で見通しは出ていると思うので把握に努めたい。

(杉本委員) 着工に至るまで、木材の流れについての計画等が把握できれば、原木を搬出する立場としてもいつまでに、どれほどの材を提供すればいいか計画が立てやすい。

突然材の提供を求められても対処できないケースが多い。

(松本会長) 木材のロジスティクスを整えていくことが重要であるので、ぜひ取り組んでいただ

きたい。

(淵上委員) 市内の小学校の統廃合の状況によって、必要となる学校机の天板用の木材量も変わってくる。学校の統廃合に関する計画等分かるものがあれば共有してほしい。

(松本会長) 資材をストックしておく流れができれば良いと思う。

〈事業コード 4-1-4 木材の多様な利用のための技術・商品開発の促進 (No.11)〉

(松本会長) 「ログハウスの開発」とあるが、当該ログハウスは市内の木材を使用しているという認識で間違いないか。

(事務局) さがみはら津久井産材を使用した施設である。

(松本会長) 市内においてログハウスへの需要は多いのか。

(事務局) 件数的にはそこまで多くはない。

(松本会長) ログハウスは2×4に比べ耐震性が高く地震にも強い。木材使用量も多いため公共建築物として活用するのも良い。

(山崎副会長) 木材利用の観点から言うと、サウナも人気であるように思う。

(松本会長) 9月にビックサイトで行われたサウナ展示会に足を運んだが、多くの種類が見受けられたうえに流行に乗っているため、ログハウスだけでなくサウナにも需要がある。

比較的手の届きやすい価格のものもあった。

(杉本委員) 藤野にもサウナのレンタルサービスを提供している場所がある。

(松本会長) サウナを組み立てて完成させるDIYキットのようなのもアイデアとしては良いのではないか。ログハウスだけではなく、サウナも有力な商品だと思う。

需要はあると思う。情報収集も含めて取り組んでほしい。

〈事業コード 4-2-3 施業集約化支援事業 (No.12)〉

(杉本委員) 弊社は森林経営計画を策定し、森林組合は神奈川県との長期施業受委託契約を締結しているものが増加している。

(松本会長) 森林所有者に対して意向調査をしたという認識で良いか。

(事務局) 経営計画を立てていこうと考える事業者が森林所有者に対して、経営計画を立てて搬出していくことを説明する入口で、現地調査や森林所有者等の調査に対して国の補助金があり交付している。

森林組合や意欲能力のある事業者が長期施業受委託を通じて、森林組合連合会の方で調査することもある。これまでは調査ができない状態だった。

(山崎副会長) 森林組合は相続で森林を引き継いだ所有者に代わって森林の調査を行うことも増えてきている。

(事務局) 事業者が集約化して管理していくことが重要と思う。事業者に対し、自らやる場合の支援と県が管理している森林を将来的には事業者が民間の主体でやっていかなければいけな

い繋ぎの支援が2つめの「○」である。

(松本会長) 市内の林業事業体はいくつあるのか。

(事務局) 認定事業体は、7事業体である。

(松本会長) 事業体が森林所有者をまとめて団地を作りたいときに支援する事業か。

(事務局) 単独でやる場合と単独でなかなか動かない場合もあるので、令和6年度は県と市で集約化の支援を行っている。

(山崎副会長) 今後、森林調査には効率化のためドローンを活用していく予定である。職員の高齢化も進んでおり、木を伐るのにもより安全性に配慮する必要がある。

(松本会長) 林業の求人は見つけづらい。ハローワークにも出てこない。林業大学校に求人広告等を掲示すると林業従事者も増加するのではないか。

〈事業コード 5-1-1 里地里山の整備事業 (No.13)〉

(松本会長) ナラ枯れ被害木は廃棄にしてしまうのか。天板等に活用しているのか。

(淵上委員) 特に材の提供はされていない。

(松本会長) 重点事項以外の項目 No. 29「再生可能エネルギーの利用促進」とリンクさせていくことが良いのではないか。山梨県ではマツ枯れの被害木をチップングしゴルフ場のボイラーに活用している事例がある。発電所を新設するのは難しいが、温浴施設などで活用するのはどうか。

(事務局) 令和8年1月から温浴施設でバイオマスボイラーを導入予定である。

現状伐倒した危険木は廃棄しているのが大半であるため、ナラ枯れ材に限らず様々な活用方法を検討していくべきであると認識している。

【「重点事項その1」に係る審議会からの意見、質疑応答等】

〈事業コード 1-2-1 さがみはら森林ビジョン普及・啓発事業 (No.1)〉

(松本会長) 数値目標に対して実績が上回っているので「A」としたい。

<異論なし>

〈事業コード 3-1-1 「相模原市市民の森」整備事業 (No.2)〉

(松本会長) 事務局としては当初の目標を達成できなかったことにより「B」としているが、柔軟に対応して成果を挙げているため、審議会としては「A」としたい。

(石原委員) 以前に意見を述べた際に事務局の事業に対する想いは伝わったが、あくまでも進捗管理に対して客観的評価をするという観点からは「A」評価が妥当である。

<異論なし>

〈事業コード 3-3-1 企業の森の整備 (No.3)〉

(松本会長) 市内に企業の森候補地は多くあるため、それらも視野に入れながら取り組んでいた
だきたい。目標に対する実績が不十分として「C」としたい。

<異論なし>

〈事業コード4-1-1 さがみはら津久井産材素材生産量の拡大 (No. 4)〉

(松本会長) 目標値を大きく上回っており、順調に生産量が増加しているように見受けられる。

大きく素材生産量が増えた要因は何なのか。

(事務局) 長期施業受委託が開始した関係で増加したと思われる。

(杉本委員) 令和元年台風の影響で一時期素材生産が停滞したが、時間の経過に伴い林道の復旧
等も進み、素材生産に必要な環境が戻ってきていることも要因の1つと考えられる。

(松本会長) 生産した木材の流通先に関しては依然として検討していただきたいが、評価として
は「A」としたい。

<異論なし>

〈事業コード4-1-3 地産地消の促進 (No. 5)〉

(松本会長) 産地証明の発行件数や取扱量は極めて低位で推移している。さがみはら津久井産材
が流通し消費される方法についても引き続き検討していただきたい。

(事務局) 産地証明制度については公共建築物等の補助金等の利用のために発行している現状が
あり、その点についても見直しが必要であると認識しており、今年度から事業体との打ち合
わせを経て改善していくつもりである。

(松本会長) これからの改善に期待しつつ、今回の評価としては「C」としたい。

<異論なし>

〈事業コード5-1-1 市有林整備事業 (No. 6)〉

(松本会長) 目標値に対して実績が不十分であるため、「A」評価は妥当ではない。整備面積は大
幅に増えるものではないため、状況に応じて目標値の下方修正等も検討していただきたい。

このままでは「B」評価が継続してしまうおそれがある。

(事務局) 目標の下方修正ができない可能性がある。

(松本会長) 制度の変更を検討し、不可能であるのならば累計ではなく単年度ごとの目標を立て、
それに対する実績を評価するという方法が望ましい。今回は目標を達成できなかったため
「B」とする。

(事務局) 第33回森林ビジョン審議会での意見を踏まえ、令和6年度からは単年度ごとの新し
い目標を付記している。

(松本会長) 単年度面積がメインとなるのであればレイアウトを工夫し、記載方法については留
意していただきたい。

<異論なし>

〈事業コード 5-1-1 私有林整備事業 (No. 7)〉

(松本会長) 累計整備面積実績が目標を上回っているため「A」が妥当であるが、この事業についても先ほどの「市有林整備事業」と同じく令和6年度から単年度の整備面積が記載されるという認識で間違いないか。

(事務局) 令和6年度から単年度の整備面積を記載している。

<異論なし>

【「重点事項以外の取組」に係る審議会からの意見、質疑応答等】

(山崎副会長) 神奈川県の水質環境税の話はどうなっているか。

(事務局) 先日の県議会でこれまでの取組で効果を上げているものは継続していかなければならないため、水質対策等については継続して進めていくと知事の説明があった。

金額や具体的な対策は令和8年度終了するまで議論していくということ。

(山崎副会長) 市町村は議論に加わらないのか。

(事務局) 何回か市町村に調査を行っている。これから本格的に議論が進むと思う。

(山崎副会長) 12月24日に厚木合庁舎で説明会があり出席する。

(事務局) その会議には市も出席する。

(増田委員) 進行管理シート No. 29 の「今後の方針」に記載されている J-クレジットについて、市としての進捗状況を伺いたい。

(事務局) 市内に15ある財産区のうち鳥屋財産区でモデル事業として令和5～6年度の2箇年にわたり事業を進めている。

令和5年度は、J-クレジットを申請するための調査や計画書づくり等の準備を行った。

令和6年度は、実際に審査機関などの審査に無事通過すれば、クレジットの販売ができるようになるところまできている。

16年間という期間のクレジットについて、購入してくれるところが実際にあるか、確実に確定していくことが課題としてある。

(増田委員) 森林の Co2 吸収量について、第1次相模原市地球温暖化対策実行計画で管理された森林は20年と定義された。20年を過ぎると CO2 の吸収が減ってしまうため、クレジットには適さないと考えた。

県の森林再生パートナーシップがあるが、Jクレジットよりも分かりやすく明朗。

(松本会長) 以前は高齢級の樹木は成長が鈍化と言われていたが、最新の研究では高齢級であるにもかかわらず成長し続けているという結果が出ている。

(山崎副会長) 伐採したところで買い手がない現状が課題である。

(松本会長) 間伐するとクレジットが減るようになっていたと思うが、皆伐してその後の成長も前倒しで参入できるとか、変わったシステムだったと思う。

取り扱っているのは、みずほ銀行だったか。

(事務局) みずほ銀行である。

(松本会長) 森林が貨幣価値として算定されるのは良いと思う。

(事務局) 山主に還元されるのかどうかを検証するための事業である。全国的には実際にクレジットの買取率が低い。課題を検証しながら市としての進め方を検討したい。

(松本会長) 企業の森とJクレジットの組合せは親和性が高い。組合せによって企業も来やすくなるのではないか。

(事務局) 県の担当者が来た時に良い山という話だった。企業の森にも参考にできれば良いと思っている。

3 その他

特になし。

4 閉会

以 上

さがみはら森林ビジョン審議会 出席者名簿

(50音順)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	石原 朗	公益社団法人 相模原市観光協会 専務理事		出席
2	杉本 貴広	有限会社 杉本林業 取締役		出席
3	淵上 美紀子	一般社団法人 さがみ湖 森・モノづくり研究所 代表理事		出席
4	増田 和美	公募委員		出席
5	松本 武	国立大学法人 東京農工大学大学院 農学研究院 准教授	会 長	出席
6	山崎 和彦	さがみはら津久井森林組合 代表理事組合長	副会長	出席